セミナーレポート

アイテス「ソラメンテ太陽光発電O&Mセミナー」

注目度増すO&Mとメンテを支える機器の重要性再確認

太陽光発電所パネル点検装置として定番の機器である「ソラメンテ」を手掛けるアイテス（滋賀県野洲市）は4月19日、東京都台東区で「ソラメンテ太陽光発電O&Mセミナー」を開催した。発電事業者をはじめ、EPC（設計・調達・建設）、O&M（運用・保守）、太陽光パネルメーカー、販売事業者などの各業界関係者50名以上が参加し、会場は満席の盛況だった。

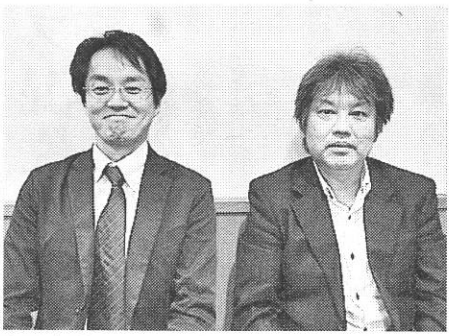
「ソラメンテ」ユーザーの講演を中心に、現場での太陽光パネルの故障事例やメンテナンス事例などを紹介した。3月に開催されたセミナーでは「募集の倍近い参加申し込みがあった（同社）」と言い、発電事業をはじめとする当該事業者の関心の高さがうかがえる。

セミナー会場の様子

第一部では、PVFCTEC取締役社長／日本あんしん設備保全協会理事長の藤村智宏氏が「住宅用太陽光発電の不具合事例と維持・管理の現状と今後の住宅市場」について講演した。住宅用太陽光発電は、ZEHやLCCM（ライフサイクルカーボンマイナス）向けに新築・既築ともに市場拡大が見込まれるものの、一方で火災や飛散などの不具合事例が後を絶たない。住宅や家財の損害、人命にも危険が及ぶケースも紹介された。「住宅用でも発電所と同じだという認識での運営・管理が施主や工務店に求められる」と強調。同協会は、太陽光発電業界で15年以上の経験者による新築住宅向け保守・点検サービスを実施している。

第二部では、アイテス取締役・製品開発部統括部長の藤田敦氏が「FIT後を見据えたO&M」について講演した。O&Mに重要な視点は「安全の維持」と「発電の維持」であると言い、同社が4年間全国180カ所の発電所でのソラメンテを使用した点検デモを実施した故障統計事例を紹介した。デモで検出されたクラスタ故障の約6割が稼働1～2年以内で、ほとんどの発電所で定期点検・遠隔監視で「異常なし」とされていた。パネル故障、売電ロスに発電事業者、点検者が気付いていない実態がある。

藤村智宏理事長（左）と藤田敦取締役



さらに、O&M採算性を左右するのは、ドローンや測定器などの道具ではなく、点検のやり方で大きく変動する「人件費」と「点検にかかる時間」であると言う。水上フロート型発電所や薄膜型パネル発電所の点検事例も紹介し、参加者は熱心に耳を傾けた。

「当社は太陽電池ユーザーの視点で、知見・情報を継続的に提供する」方針と藤田取締役は話す。発電事業、EPC・O&Mのみならず、設備メーカーにとっても有意義な内容のセミナーとなった。